

JSL児童の在籍学級での コミュニケーション行動 フィールドノートによる分析

子どもの日本語教育研究会
第3回研究大会パネルセッション
JSL児童が在籍学級の学習に

参加するための日本語

—教室談話と教科書の語彙分析の結果から—
(於：聖心女子大学) 2018.03.03 (土)

森篤嗣 (京都外国語大学)

「取り出し指導」と「入り込み指導」

- JSL児童に対する指導形態として「取り出し指導」と「入り込み指導」がある。平成25年5月31日に出された「日本語指導が必要な児童生徒に対する指導の在り方について（審議のまとめ）」においては、「「特別の教育課程」による日本語指導（案）」として指導形態について、次の記述がある。



「特別の教育課程」による日本語指導 (案)

- (V) 指導の形態及び場所・児童生徒の在籍する学校における「取り出し指導」・他校における指導
- ※ただし、学校に空き教室がない場合や地理的条件等により学校内に当該指導を行う場所を設けることが困難である場合など、やむを得ない事情がある場合には、一定の要件の下、例外的に、学校外施設における指導も認めることとする。

「特別の教育課程」の影響

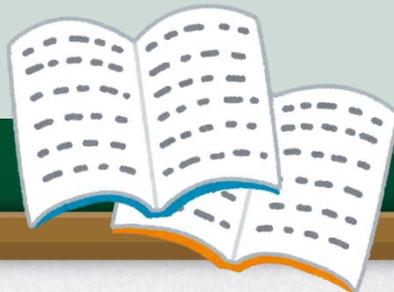
- 特別の教育課程においては「取り出し指導」を原則？
- しかし、従来のJSL児童に対する指導では、全国の教育現場で「入り込み指導」も
- 特別の教育課程のもと、「取り出し指導」については、事例も多く報告されるように
- 特別の教育課程をきっかけに情報共有の場が多くなったことは大変有意義

「特別の教育課程」の影響

- その一方で「入り込み指導」についてはどうだろうか。
- もちろん、実践は全国で数多くおこなわれている。
- しかし、担任教師と日本語指導者はそれぞれ眼前の課題を解決することに追われている。
- JSL児童の在籍学級でのコミュニケーション行動にどのような共通する困難点があり、どのような方法でその困難を乗り越えて成長しているかについて分析することは簡単なことではない。

参与観察によるフィールドノート

- それを解決する一つの方法が、第三者（研究者や大学院生・大学生など）の参与観察による記録
- 昨今の個人情報保護の観点から、日本の学校教育現場においても、第三者による録音・録画は難しい。
- しかし、参与観察におけるフィールドノートであれば実行可能なことも多い。



参与観察によるフィールドノート

- JSL児童の指導に関する研究は盛んになりつつあるが、教育現場のデータを取得しておこなうという点では、まだまだ至らない点も多い。日本語教育関係者が積極的に学校教育現場に関わっていくことという方向性が必要だろう。
- 本発表では、JSL児童の在籍学級において、JSL児童と教師、JSL児童と日本人児童、JSL児童同士のコミュニケーション行動計10時間の参与観察と、それを補足する取り出し指導での参与観察のフィールドノートから分析をおこなう。

JSL児童の在籍学級での「つまづき」

- 本発表ではJSL児童の在籍学級でのコミュニケーション行動を観察した結果を報告していく。
- まず全体として、一対一ないし少数での「取り出し指導」とは異なり、在籍学級での授業の場合、**JSL児童の発言数はかなり限られる**こととなる。
- したがって、10時間の参与観察といっても、JSL児童が関わるコミュニケーション行動場面はそれほど多くない。

事例 1 : 小学校4年国語

- 「ある秋のことでした。二、三日雨が降り続いたその間、ごんは、外へも出られなくて、あなの中にしゃがんでいました」について感じたこと。
- Aさんは「テンションが低い、いたずらできない」と答え、そう感じた理由として「穴から出られない。雨がきらい」と答えた。

事例 1 : 小学校4年国語

- そこに教師が「がまんの限界なんだね」とAさんの発言を解釈して声をかけた。
- Aさんはもう一度「理由はもうがまんできないから」と繰り返す。
- →このケースで「がまんの限界」を提示するタイミングはこれでいいか？Aさんは教師の「がまんの限界」という表現を理解したか？納得しているのか？

事例 2 : 小学校4年国語

- 教師が「10ページの8行目から読んで下さい」と指示。Bさんは戸惑う。教師はもう一度「10ページの8行目, 下のちよんって数字見て」と指示。Bさんは対応できない。周囲の児童に教えてもらって解決。
- → 「ページ」や「行」という概念がうまく把握できていない。物語の冒頭から行を数えないといけないと思っていた？

事例 3 : 小学校5年国語

- 「注文の多い料理店」で「紳士」の言葉の意味を問われる。Cさんは「旅館の人」「ホテルの人」と答える。



- →文化的な問題？個人的な認識の問題？

事例 4 : 小学校5年算数

- かなり難しめの分数の問題を班の人に説明する。Dさんは当初は「わかった」と自信ありだったが、実際に説明してみてもクラスメートから質問を受けると地震学なり引き下がってしまう。
- →日本人児童同士でもあること。母語でないことの影響は？

まとめ

- 「特別の教育課程」により、「取り出し指導」の報告が増え情報共有が進んでいる
- 「入り込み指導」をどうするか
- 在籍学級での「つまづき」を共有できないか
- 録音・録画が難しければ、フィールドノートの活用を

本パネルセッションとの関わり

- JSL児童の日本語指導の「目的」は何か？→齋藤発表「社会化と認知発達」
- JSL児童にとって「難しい」とされる小学校国語科教科書の実態は？→田中発表
- 教室内コミュニケーションにおいて、どこまでが「言語の力」の問題なのか？
- 教育的対応は可能なのか？
- 短期（いま，ここ）～中長期的にどう支えていくことができるのか？